



山と人との調和をモチーフに
デザイン開発。
基本カラーはエコグリーン。
デザインは木原実行さん。

11,700人、山に入る

【日時】 2006年10月22日（日）

【場所】 ●東広島市・憩いの森公園
●廿日市市・もみのき森林公園
●広島市・広島市森林公園
●広島市・広島県緑化センター
●庄原市・かんぼの森

【主催】 ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
広島県
(社)広島県みどり推進機構

「緑と水の森林基金」助成事業

11,700人、山に入る



【第30回全国育樹祭 サテライト会場】

第5回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

2006年10月22日（日）開催

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会／広島県／(社)広島県みどり推進機構

はじめに

「山の日」をつくろうとの呼びかけにより、そのシンボル事業として、ひろしま「山の日」県民の集いをはじめ5年になります。今年第30回全国育樹祭サテライト会場として、県下5会場で開催いたしました。

各参加団体がそれぞれ工夫を凝らし、各会場でおおいに盛り上がりを見せました。身近な里山に様々な形で関わり、興味を抱いていただくきっかけになったことと思います。今後の事業に少しでも役立てばと、文字に残す記録集としてこの小冊子を編集しました。

関係者及びこの行事に関わっていただいた全ての方々、そして後援・協賛として行事を支えて下さった皆様に心より感謝申し上げます。

もくじ INDEX

■事業のアウトライン	01
■全体総括	02
■各プログラムの記録	
●東広島市サテライト会場 憩いの森公園	04
●廿日市市サテライト会場 もみのき森林公園	10
●広島市サテライト会場 広島市森林公園	16
●広島市サテライト会場 広島県緑化センター	21
●庄原市サテライト会場 かんぼの森	26
■実行委員・協力者・団体等	30

事業のアウトライン

開催の位置づけ	(1) 第5回目、そして第30回全国育樹祭が広島県で開催されるという記念すべき年に当り、より広く県民の参加を得る行事として実施する。 (2) 今まで山の日を開催してきた会場に庄原市を加え、県下5会場で、全国育樹祭のサテライト会場と位置づけ実施する。 (3) 将来を見据え、持続可能な事業のあり方のモデルづくりをめざす。
名称	第30回全国育樹祭 サテライト会場 第5回ひろしま「山の日」県民の集い
主旨	○身近な森林や山とかかわるきっかけづくりを目的に、「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマとし、実体感型プログラムを多く取り入れたひろしま「山の日」県民の集いを開催する。
日時	2006年10月22日(日)
場所	○東広島市会場:龍王山憩いの森公園(東広島市西条町) ○廿日市市会場:広島県立もみのき森林公園(廿日市市吉和) ○広島市会場:広島市森林公園(広島市東区福田町) 広島県緑化センター(広島市東区福田町) ○庄原市会場:かんぼの森(庄原市新庄町)
総参加者	11,700人
主催	ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会 広島県、社団法人広島県みどり推進機構
後援	林野庁、広島県教育委員会、東広島市、廿日市市、広島市、三原市、庄原市、(社)国土緑化推進機構、ひろしま緑づくりインフォメーションセンター、広島県山岳連盟、(社)日本山岳会広島支部、中国新聞社、NHK広島放送局、中国放送、広島テレビ放送、広島ホームテレビ、テレビ新広島、広島エフエム放送
協賛	(株)ウッドワン、西条・山と水の環境機構、(株)共立機械製作所、JAグループ広島、西条ロータリークラブ、山陽乳業(株)、しまなみ信用金庫、中国木材(株)、(株)中電工広島支店、大和重工(株)、(株)デオデオ、(株)広島バスセンター、広島県協同組合連絡協議会、広島コンピュータ専門学校・広島情報ビジネス専門学校、(社)広島県造園建設業協会、広島市漁業協同組合、三菱重工業(株)紙・印刷機械事業部 プラント・交通システム事業センター、三原郷心会、三原商工会議所、(株)ホテルグランヴィア広島、マツダ(株)、郷心会連合会、東広島ロータリークラブ、広島ガス(株)、丸善製薬(株)、三原西部工業団地協議会、山陽建設(株)、(株)不二ビルサービス、アトム(株)、天野実業(株)、アラハタ(株)、因島商工会議所、上田鉄工(株)、尾道商工会議所、広愛産業(株)、(株)勝村商店、クニヒロ(株)、幸陽船渠(株)、庄原商工会議所、竹原郷心会、竹原商工会議所、帝人テクノプロダクツ(株)、帝人(株)三原事業所、東京農業大学校友会広島支部、鞆鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)広島支社三原地域鉄道部、(社)日本造園建設業協会広島県支部、東中国菱重興産(株)、東広島商工会議所、広島ガス開発(株)、広島商工会議所、広電建設(株)、福山商工会議所、藤井商事(株)、府中商工会議所、ホーコス(株)、みずえ緑地(株)、(社)三原観光協会、三原グランドパレス、三原市建設協会、三原市造園建設業協会、三原木材協同組合、三原ロータリークラブ、(株)山豊、(株)有斐園、由水酒販(株) (順不同)
助成	国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」助成事業

11,700人、山に入る

ひろしまに「山の日」を。山の日を国民の休日に。2006年10月22日(日)は、私たちがこんな宣言を出して、5回目のひろしま「山の日」県民の集いとなりました。

今年は広島県で第30回全国育樹祭(主催:全国育樹祭広島県実行委員会・社団法人国土緑化推進機構、会場:広島県立中央森林公園)が開催される記念すべき年にあたり、全国育樹祭のサテライト会場として県下5ヶ所の会場で、第5回ひろしま「山の日」県民の集いを行うことができました。

方針はつくったものの、5ヶ所の会場に分散することは、全体のパワーも減少するのではないか、育樹祭と山の日の関係はどうなのか、などの意見も出されましたが、何回か委員会を重ねるうちに、「バラバラで一緒」というようなコンセプトが自然に動きはじめました。

ボランティア団体、山を愛する人、自然保全体、大学、高校、森林組合、JA、山の持ち主など、それぞれの団体・グループがそれぞれの企画を持ち寄り、5ヶ所の会場で50プログラムが行なわれました。また、私たちの呼びかけに応じて、県内65の企業・団体からこの事業に対してあたたかい支援(資金や商品提供)を受けました。併せて、この行事に多くの社員が家族連れで参加されるという思わぬ効果も生まれました。

ボランティア団体・企業・県民のコラボレーションにより、11,700人の人たちが会場に足を運び、山でいい汗を流されたのだと思います。

多くの人たちと一緒にこの行事を行い、感動を共有できたことが、これからのひろしま「山の日」、県民参加の森林づくりに大きく影響するものと信じます。

最後に、この行事にさまざまな形でご参加いただいた皆さま方すべてに心より感謝申し上げます。企画の段階から丁寧にご指導いただき、私たちのアイデアの実現に向けて対応いただいた広島県農林水産部森林保全室の方々、サテライト会場をお引受けいただいた東広島市・廿日市市・広島市・庄原市・三原市の行政の方々、ご協賛をいただいた企業・団体の方々、本当にありがとうございました。

今回の行事の経験、私たちが得た充足感をひとつの財産に、私たちも、山の日運動をより広く、より深く、末長く展開していきたいと考えています。

今後ともご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会

ひろしま「山の日」県民の集い 「山の日」宣言

広島県の面積のおよそ70%は山です。
全国に誇る里山を有しています。

山から湧き出る水は命の源であり、その水が里の稲や野菜を育てています。
山を被う緑の木や草は、新鮮な空気をつくりだしています。
広島の豊かな山で生まれた水は豊かな川となり瀬戸内海や日本海へ注ぎ、
魚や貝を育てています。

山や森は、大きな力で野生動植物や私たちの暮らしを支えています。

第30回全国育樹祭サテライト会場として、
「山に親しむ、山を楽しむ、山に学ぶ」をテーマに
ひろしま「山の日」県民の集いを、東広島市・憩の森公園、廿日市市・もみのき森林公園、
広島市・広島市森林公園、広島市・広島県緑化センター、庄原市・かんぼの森、
県内・5箇所の会場で開催します。

ここ、ひろしまの里山から、山や森の大切さを理解し
行動をする人の輪を拡げていくことを、
第5回ひろしま「山の日」県民の集いにおいて、宣言します。

2006年10月22日

ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
実行委員長 福島 偉人

東広島市サテライト会場

憩いの森公園

■参加人数：1,500名

▼プログラム状況

憩いの森公園は、第1回ひろしま「山の日」県民の集いを開催した会場です。その頃から「山の日」に対する市民や団体の取り組みの下準備ができていたような気がします。

3回の委員会と2回の現地準備会により会場の企画や運営が行なわれました。この会場には、山の持ち主をはじめ憩いの森にかかわる多くの団体、地元の高校・大学等が最初の段階から参加し、行事を行ったことが大きな特色です。

10月21日(土)には、オートキャンプ場ファイヤーサークルで、あたたかい雰囲気の中で前夜祭を。そして、翌日の10月22日(日)には、秋晴れの下、1,500人の参加者が、「山に親しみ、山に楽しみ、山に学び」しました。

詳しい内容や熱気は各プログラムの報告をごらんください。

また、22日(日)午後1時からは、西条の酒づくりに使われる水源の山となっている、能王山中腹でグラウンドワークの参加者の参列のもと、「西条龍王の名水の碑」の除幕式を行ないました。これらの水が地下の岩盤を何十年もかかって酒造会社の井戸に到着し、酒づくりに大変良い水となると解説がありました。

記録者：西条・山と水の環境機構 畝崎 辰登



山のグラウンドワーク

■参加人数：約350名

▼プログラム状況

山の日オープニングセレモニーの締めくくりに安全祈願「どんぐり・ころころ」の発声を宮岡が担当。約350名が参加し



て山のグラウンドワークで雑木林の除伐、下草刈り。除伐の約2割をウッドチップにし、残りは等高線に沿って整理整頓をした。

作業はグループごとに14班に分け、賀茂地方森林組合の高下義彦さんの指揮のもとで班長・副班長が中心になって森を全員で取り囲んで作業をして良い汗をかいた。

参加者の当初予定は200名でしたが、パブコック日立兵、シャープ、広島県労働者福祉協議会、広島県山岳連盟、中国電力、中電工、広大学生、西条農業高生徒、憩いの森友の会、日興苑遊歩会、西条・山と水の環境機構、サポート・トレッキング・グループなどで予想を超える参加者となった。

参加者は全員がヘルメットをかぶり、鋸を使って整備。広大の学生で手袋を持たないものがあり貸与してことなきを得た全員が事故もなくすがすがしい汗をかき、藪のような林が見事な森になった。



記録者：サポート・トレッキング・グループ

宮岡 泰久

森のネイチャーゲーム

■参加人数：45名

▼プログラム状況

ネイチャーゲームは、1) 多目的広場の受付にきた人に随時、楽しみながら自然観察ができるフィールドビンゴを紹介し、家族で体験してもらうプログラム(これだけの参加は4名)と、2) 午前1回、午後2回のミニ・ツアーによるプログラムの、2種類の活動を行いました。ミニ・ツアーの内容と参加者は以下の通りでした。実施場所として、オートキャンプ場周辺の林地と広場を利用しました。

【10時の回】フィールドビンゴ→目かくしイモムシ→目かくしトレイル。参加者は9人。目かくしをして森の雰囲気を感じたり、ロープを伝っての林内探検をしたりしました。

【13時の回】目かくしイモムシ→目かくしトレイル→フィールドビンゴ。参加者は10人。

【14時の回】カメラゲーム→フィールドビンゴ。参加者は22人。参加者がカメラマンとカメラに分かれて、気に入った自然の撮影会(?)。



記録者：広島県ネイチャーゲーム協会(呉・東広島および尾三のネイチャーゲームの会) 浅野 敏久

龍王山の地質・岩石・遺跡-自然観察会

■参加人数：30名

▼プログラム状況

龍王山の南斜面集水域はひじょうに狭いにもかかわらず、西条酒造界の命運を左右するきわめて重要な水源域である。その自然のほんとうの姿を知ろうとする参加者に、大きな驚きをもって受け入れられ、ことに多くの閃緑岩質岩の捕獲岩をもった花崗岩にこだわった新立1号古墳(石室)、セミナーハウス横の深い谷、半尾川河床に見られる花崗岩(流紋岩は分布しない)の方状節理と、それに起因する風化・侵食・斜面崩壊の露頭観察は、水にまつわる自然環境を理解する大きな手がかりになったと、参加者の感想が多かった。また、シンボル庭園を上がった展望台からみた西条盆地北部の扇状地は、龍王山と半尾川がもたらす水の地下貯水池である可能性が高いだけに、とくに注目をひいたようである。参加者の発言をまとめると、新しい発見があいついだ自然観察会であったと報告できる。



●新立1号古墳の見学(捕獲石にこだわった大きな石室)



●セミナーハウス東の谷(花崗岩の方状節理-河床面の節理は緩い南傾斜・重力によって上位の岩石が滑動-斜面崩壊)

記録者：東広島市自然研究会 沖村 雄二

森の働き者・野鳥を見よう-野鳥観察会

■参加人数：60名(2回実施)

▼プログラム状況

野鳥観察が終わったあとインタビューを受ける参加者聞き手は、アナウンサーであり、野鳥の会会員の山原玲子さん



地産地消 野菜市

■参加人数：多数

▼プログラム状況

地元でとれた新鮮な野菜や西条カキを販売しました。ほとんどが午前中で売れてしまい、お昼過ぎには写真のような状態になってしまいました。



やま・もり・里山・ものづくり

■参加人数：多数

▼プログラム状況

国産材を利用した木工品の展示販売と、除・間伐材等を利用した木工品の制作実演、及び参加者の制作指導。

制作物は、①クリスマスの形をあしらったポストカード立て②枝を利用したボールペンの制作。約20人程度の制作参加があった。

山原玲子アナウンサーによる呼びかけにより、公園を利用されていた人々の参加がたくさんあったように思う。初めて手作りで作った子供達もいて、いい体験ができたのではないかと思います。



記録者：ゆーもあファクトリー 木原 博和

前夜祭

■参加人数：35名

▼プログラム状況

10月21日(土)15時過ぎに西条の竜王山キャンプサイト入り。快適なオートキャンプ場!な〜と山ヤが芝生の上にテントを設営。極楽、ゴクラク。

「こんにちわ〜」とキャンプサイトへ!皆、ニコニコと嬉しそう。久しぶりの人、ちょっと前に逢った人、初めての人もいたのかな?

テントとタープを張ってテーブルと椅子をセッティング。ちょっと肌寒いが焚火台で暖まる。夕食は支部友会員の前垣佳代さんが、美味し〜い“おでん”を作ってくださいました。感謝・KANSYA!そして三原の田中夫人から“なます”の差入れもあり幸せな気分で星空のもと乾杯〜!心の通うひとときだ。いよいよ“美味しい晩ご飯の始まり〜”お腹いっぱいでも眠たくってはいけません。

前夜祭のキャンプファイアが待っています。ホロ酔い気分で夜風に吹かれ、いざ前夜祭!居合わせた親子連れも参加して和気藹々。振舞い酒に祭り気分も最高潮!自己紹介や自慢話、歌も始まってワイワイガヤガヤ。ひと通り終わっても、火を囲んで、三々五々集まって話が弾みました。



記録者:日本山岳会広島支部 兼森 路子

「木ぼっくり」の世界

■参加人数：多数

▼プログラム状況

除・間伐材等で「木ぼっくり」を制作展示し、木(山)との触合いの一考察として参加した。

東広島市八本松町の七つ池周辺の里山を想定し、松茸を採って「とったど〜」と叫ぶ木ぼっくり、酒都西条で酒の仕込みをする木ぼっくりの「杜氏」、それを飲む、酒が好きな来年干支のイノシシ達、そして夜になるとこのあたりの里山はイノシシの世界で縦横無尽に走り回っている「イノシシ牧場」があり、年末恒例の市民参加のイベントに参加するために練習する、二百数十匹のネズミの合唱団をドングリで表現してみました。

展示に当たっては、天気にも恵まれ、又、設置位置にも恵まれ会場を訪れた人達のほとんどが目に止めてくれたようで、除伐材、間伐材、あるいは小さな小枝の利用の一考察の目的は達した感あり。

特に「うり坊のストラップ」には人気があり、不用な小枝の利用としての活用方法の具体的事例としての検証が行はれたとおもはれる。

またドングリ工作の目的は、この制作作品に留まらず、各種団体、地域あるいは学校等において「みんなで何かに向かって目標を持って何かを作る」その「なにか」の事例として展示した。これは例えば、学校等において数千匹も作ることも可能であり、ギネスブックへの挑戦も可能だと思われ、このような事でイベントの盛り上がり期待できるかもと推測。



記録者:広島県森林インストラクター連絡協議会
宮本 寿美敏

紹介します、西条農業高校

■参加人数：多数

▼プログラム状況

西条農業高校の生活科、緑地土木科やクラブ活動の紹介パネルを展示しました。特に福富ダムの周辺地形模型は来場者の目をひいていました。

また、西条農業高校からテントやいす・机をお貸しいただき、先生・生徒約50名が会場のテント設営・撤去を行いました。

グラウンドワークにも参加し、ウッドチップづくりに汗を流しました。



記録者:事務局 船本 昌義

山の手入れ道具・木工品の展示・販売

■参加人数：多数

▼プログラム状況

木工用品、山の手入れ道具の展示販売や、間伐についてのパネルを展示しました。

木工品の販売には、子供たちに、パズルや、動物の動くおもちゃなど、普段遊ばないおもちゃに人気がありました。また、木製のトレイやコップは、暖かみがあり、年配の方が好んで買われました。

山の手入れ道具の販売は、枝打鋸、鎌ケースなど、本格的なものに人気があり、山のグラウンドワークを終えた人が買い求められました。

間伐のパネル展示は、間伐を行なう事の成果などを、解りやすく紹介しました。



記録者:賀茂地方森林組合 児玉 憲昭

廿日市市サテライト会場 もみのき森林公園

■参加人数：4,000名

▼プログラム状況

[概況]

秋晴れのなか、午前9時45分に「山の日」宣言を公園全体に放送したあと午前10時より各プログラムを開始した。屋外においては、メインプログラムの「やってみようボランティア」の森林整備をはじめとして、テーマどおり「森を習おう・森と遊ぼう・森をつくろう」の森を楽しむプログラムを開始した。また、体育館の特設ステージでは、中国山地の伝統芸能の神楽上演がはじまった。参加者は、ファミリーでの参加が多く色づき始めた山々と高原のさわやかな空気のなかで、「もみのき森林公園」らしく子どもから大人まで年齢層に関係なく、ウォーキングで汗をかく人、体験コーナーでつくる人、地元の食材を食べる人、買う人、コンサートを聞く人で楽しい時間をみんなで手づくりした。

[行事]

「森を習おう・森と遊ぼう・森をつくろう」のテーマどおりに楽しい時間をみんなで手づくりし、森に親しむためにいろいろな催し物を行った。また、もみのき公園内のアスレチックコースを小・中学生に無料開放した。



記録者：もみのき森林公園

やってみよう森のボランティア

■参加人数：150名

▼プログラム状況

参加者は、森林ボランティア団体メンバーの作業指導のもと、公園内の6箇所で行伐・除伐、萌芽の除去に汗を流した。



親子連れでの参加者50人は公園内の「ドキドキの森」で灌木の伐採と小枝伐りを行った。

子供たちははじめて手にする剪定ばさみを使い、ママからハサミの使い方を教わり張り切って小枝を切っていた。中にはパパから手ノコを借りて腕ほどもある枝の玉伐りに挑戦する子供も見られた。

森林ボランティアによる胸高径30センチのスギの模範伐倒には、はじめて見学する参加者から驚嘆と拍手が贈られた。

2時間の作業で見違えるように明るくなった森に満足しながら、昼食のおいしさを実感した秋の1日だった。

廿日市市会場での「森のボランティア活動」には一般募集の参加者を含め広島県労福協、鉄鋼総合商社メタルワン、阿品の森サポータークラブ、広島県森林インストラクター連絡協議会、県山岳連盟の合計150人が参加した。



記録者：江川 和穂

森のコンサート

■参加人数：観客多数

▼プログラム状況

■オカリナの演奏・フォークギターの演奏

秋晴れのなか、参加者は自由に演奏を聴くことができた。



■神楽の上演

中国山地の伝統芸能を上演する。

出演団体 吉和神楽団（廿日市市）
塩瀬神楽団（安芸高田市）
宮乃木神楽団（安佐北区）

演目は、伊吹山・葛城山・塵倫・滝夜叉姫・羅生門



記録者：もみのき森林公園

自然観察会

■参加人数：73名

▼プログラム状況

ひろしま山の日景民の集いへの参加は今回で5回目、もみのき森林公園では2回目となりました。自然観察会は公園内のバリアフリーAコースを午前・午後の2回実施しました。

今回は、子供たちを含む家族連れでの参加が目立ちました。10人程度に班分けをし、①赤いもの、②丸いもの③飛ぶもの④いい匂いのもの、⑤美味しいもの、⑥ひつつくもの、⑦何かが食べたあと、⑧面白いもの、⑨今日一番印象に残ったもの、の9項目の課題、色々なものを見たり・聞いたり・嗅いだり・味わったり・触れたりと五感を使っての自然観察です。子どもたちの鋭い目線に大人もタジタジ!です。通常1時間のコースですが2時間かかっても足りないくらいで各班ともショートカットです。ちょっと肌寒い感がありましたが、参加者の方の笑顔に癒された一日でした。



記録者：広島県自然観察指導員連絡会
六重部 篤志

森のクラフト教室

■参加人数：92名

▼プログラム状況

公園の「森のフェスティバル」参加の来園者がどっと訪れ、工作の申込の子供たちは92人にのぼり、引率する保護者を含めると過去最高の250~300人のお客様でした。

教室は満員で、座ることが困難な状況もあり、入場を待っていただくこともありました。スタッフも倍の4人を配置しましたが、あちこち声が出るたびに飛び回り、昼食の間もないほど。スタッフの中には、忙しさを何をやったか覚えがないとつぶやく人がたほほどでした。工作した子供たちは、お父さんお母さんから手ほどきを受けそれぞれが個性的な作品に仕上げ満足そうな顔で帰ってゆきました。あらかじめ用意した「キツキセット」100組を作成しておいたお陰で多くの参加者にも対応することができました。



記録者：中国山地山なみ大学

森のネイチャーゲーム

■参加人数：48名

▼プログラム状況

周囲は紅葉もはじまり、深まりつつある秋を感じてもらおうことを目的に行ないました。家族づれを中心に就学前や小学校生のほか、70歳代のお年寄りまで幅広い参加者となりました。午前中晴天にも恵まれ参加者は深まる秋を感じながら楽しんでいましたが、午後は曇りとなり、風も吹き始め気温もさらに低くなるなか、参加者も低迷するかと思われましたが、午前中他の行事に参加した人達の参加があり結果として総勢48名の参加者を確保することができました。

プログラムは、「カモフラージュ」虫たちの擬態をゲーム化したもので自然の不思議を体験してもらうほか、森林公園内での色探しとなる「森のいろあわせ」や森の中で野遊び道具探しとなる「ディスカバーウォーク」を行ないました。野遊びでは、「とばす」「くつつける」「かざる」「あむ」「たたかう」「つむ」「まわす」「つくる」「ならす」などを探しながら、森林公園内の自然を楽しんでもらいました。

参加者の感想は、子ども達からは楽しかった。もっとやりたい。大人たちでは、発見があって森や山を見る見方が変わったという意見が多かったようです。



●カモフラージュ



●ディスカバーウォーク

記録者：広島県ネイチャーゲーム協会 秋山 浩三

わくわくロケット教室

■参加人数：80名

▼プログラム状況

ここは芝生広場 澄み切った秋空高く飛んでいく手作りロケット、打ち上げの都度 子供達から大きな歓声が上がります。その高さ40~50メートル。

ペットボトルとゴム風船、それに紙で作った尾翼。子供達の理科離れが問題になっている昨今、子供達がマイロケットを真剣に作りました。打ち上げ動力は自転車の「空気注ぎ」。打ち上げ3秒前から始まる秒読みと自分で打ち上げスイッチを押すのも子供達には貴重な経験になりました。

作り方を指導したのは「NPO教育・環境コーディネーター」の一瀬泰啓さんでした。参加者は定員を30人オーバーする80人でした。



記録者：大西 弘

もちまき

■参加人数：多数

▼プログラム状況

国旗、広島県旗、山の日旗の前でのもちまき。参加者が多すぎて一時将棋倒しの事故を心配する。みんな、もちや菓子をつかむのに一生懸命で力を出し切った様子。

もちまきは、屋外広場1回、体育館で1回、計2回実施。



記録者：もみのき森林公園

林業・農業器具の展示販売

■参加人数：多数

▼プログラム状況

山の手入れに必要な道具
低価格で提供するが？

参加者欲しいのは欲しいけど価格が気になる様子！



記録者：もみのき森林公園

味の味覚市／ダッチオープン料理

■参加人数：多数

▼プログラム状況

地産地消どおり地元でのとりたて野菜 きのこと(アワビタケ・マイタケなど) その場でてんぷら・串焼きなど好評！

ダッチオープン料理では、キノコの具のまぜご飯と汁を無料にて参加者にふるまう！

もちろん、特製の五右衛門風呂は展示してあります！



記録者：もみのき森林公園

クラフトフェスタと陶芸体験

■参加人数：多数

▼プログラム状況

クラフト陶芸作家による作品展示と販売。
趣味で行っているパンやコーヒーも人気があり満足。



記録者：もみのき森林公園

森のウォーキング

■参加人数：80名

▼プログラム状況

「しっかり準備運動をしてから歩きましょう」「メタボリックシンドローム対策はウォーキングが一番」の声は、今日のウォーキング指導担当、健康運動指導士の玉川真弓先生。



これから標高差88mのなだらかな上り下り6.15kmのコースを、80名で歩くことになるのだが、いつもサイクリングコースとして使用されているだけに、管理が行き届き実に気持ちが良い。

紅葉狩りには少し早いですが、それでも最高地点(標高965m)では雑木にまつわりつく葛(つた)や黄櫨(はぜ)の赤と、栗、榎(くぬぎ)、樺(けやき)の黄色、時には真っ赤な楓の赤が、もみの木や杉などの針葉樹の緑と微妙なコントラストを醸し出し、澄んだ大空のもとでのウォーキングを楽しませてくれる。遠くに見える高山と雲の遠景も見事だ。

この自然環境だと、三シーズン(新緑の春・納涼の夏、紅葉の秋)ウォーキングに開放できないかと玉川先生と話しながら、ペースメーカーとして、「10分1km」60分余で完歩する。

スタート時に轟いていた神楽太鼓が、ゴール時にも迎えてくれる。

ありがとう。紅葉狩り満喫ウォーキングに感謝!!



記録者：梅田 一磨

広島市サテライト会場

広島市森林公園

■参加人数：2,804名

▼プログラム状況

広島市森林公園会場は、6団体共催のもと、芝生広場を中心に、林業体験広場、ジャブジャブ川周辺の3ヶ所で、枝打体験等7つのプログラムを実施した。公園入園者数は2,804人で、森林ボランティア等70人が指導等をおこなった。

本会場は9時から開会。開会式は、芝生広場で森林ボランティア等約50人が参加し、はじめに全国育樹祭広島県実行委員会から贈呈されたノコギリ等育樹用具を披露した後、見勢井運営委員長(もりメイト倶楽部Hiroshima会長)が「山の日」宣言をした。

この時、すでに公園駐車料金所で、9時の開園を待っていた約60台の車が開園するやいなや一目散に、各プログラム目がけて走りだしていた。

芝生広場には、開会式が終わると同時に、目を輝かせた親子連れがあらわれ、目的のプログラムへ参加しようとしていた。

この光景をみて、天気もいいことから、今日の「山の日」は成功間違いなしとの感触をもった。本会場のテーマどおり親子連れが多く、枝打体験では、親に負けないぐらい子供も上手に鋸でヒノキの枝を切っていた、ベンチづくり、モミジの植栽や木の葉さがしではお互いに協力し、また、森と昆虫はもらった幼虫を生育させるため親子共々真剣に講師の話聞いていた、紙ヒコーキは風があり、よく飛んで大喜びをしていた、森のあじわいコーナーの品々も季節のフルーツ等で、売れ行きが良かった。アンケートをみてもほとんどの方が満足し、今後、森林づくりに参加したいとの意見が多く、「山の日」の目的が達成できたと実感した。

心配していた怪我はなく、安堵した。また、プログラムの進行も指導者の方々が内容をよく理解していて、スムーズに運営でき、予定どおり15時に閉会した。

解散式は芝生広場で、16時から約60人が参加して、桑原副運営委員長(フォレストクラブ森守会長)の「皆さんご苦労さまでした。」の挨拶で締めくくった。なお、この後、みんなで片付けをし、会場はもとどおりきれいになった。

みんなの協力のおかげで、「みんなで森林づくりALL-IN」の目的に向けて一歩前進できた。感謝。

記録者：事務局長
山崎 弘身



親ひのき子ひのきの森「枝打ち」体験

■参加人数：205名

▼プログラム状況

朝からの好天に恵まれ参加者の集まりも良くスケジュールどおり、午前10時から開始し予定どおり終了することができた。参加者の殆どは、今回初めて「枝打」を体験する人でこの企画に満足されていた。しかし、参加者の中には、少数ではあるが、物足りないと感じた人がいた。今回の企画は家族をメインターゲットにしており、「枝打」するひのきの樹齢が若く、大人一人で参加した人にとっては、物足りなく感じたのではないかとと思われる。

また、今回の「枝打」の指導は、森林ボランティア団体の「フォレストクラブ森守」と「もりメイト倶楽部Hiroshima」の20名が担当したが、イベント参加者とのコミュニケーションも良く、大変好評だった。

アンケート結果では、約9割の人が大変満足、満足と回答していた。また、今回の「枝打」に参加したことによって「今後また森林づくりに参加したいか」の問いに9割以上の方が参加したいと回答しており、森林づくりに対する動議づけになったと思われる。



記録者：フォレストクラブ森守・もりメイト倶楽部Hiroshima・
市民参加の森林づくり実行委員会
小川 義行

親子でベンチを作ろう

■参加人数：50組157名

▼プログラム状況

我が倶楽部は、広島市森林公園で「親子でベンチを作ろう」ほか「枝打ち体験」「モミジの植樹」「木の葉さがしゲーム」などを担当し、35名が対応しました。「親子でベンチを作ろう」は間伐材の有効利用が目的で、参加費2千円で2脚のベンチを作成して頂き、1脚を持帰り1脚を市内の幼稚園等公共施設に寄贈するというもの。16名が計50組(午前が81名、午後が76名)の親子をサポートしました。午前中は受付開始して5分位で、すぐに25組が受付完了。午後は受付開始1時間前の11時半頃に行列ができて始め、11:40頃には25組以上が並ぶ盛況ぶりでした。製作できなかった人達から、是非とも製作チャンスを設けて欲しいと要望が沢山寄せられました。ドライバーの充電が間に合わず、寄贈用のベンチは46脚しか作製できませんでしたが、怪我人も無く組み立てることができました。(残り4脚は翌日組み立てた。)



記録者：もりメイト倶楽部Hiroshima 見勢井 誠

森と昆虫-カブトムシを育てよう-

■参加人数：113名

▼プログラム状況

森に親しんでもらうため、森に生息する代表的な昆虫であるカブトムシをテーマに取り上げ、森での生態的な役割や生活史、飼育の方法などについて解説する講習会を行った。講習会終了後は参加者にカブトムシの幼虫各1頭を無料配布した。(対象は児童とその保護者、午前午後の2回、定員は各50人)

参加者は当日申し込みで受け付けたが、受付開始と同時に参加希望者が殺到し長蛇の列ができたため、急ぎよ準備のカブトムシの幼虫を加えて、定員を午前午後合わせて113人とした。

参加者を対象にアンケート調査を行った結果、このイベントの内容について80%が「とてもよかった」、18%が「よかった」と回答した(満足度98%)。また「今後あなたは森林を育てたり、守ったりする活動やイベントに参加したいと思いますか?」という問いに75%が「参加したい」と回答した。



記録者：広島市森林公園・フォレストクラブ森守
金本秀之

モミジの森をつくろう

■参加人数：104名

▼プログラム状況

市民の方々にモミジの苗木(品種:イロハモミジ、樹高1.5m程度)を「山の日」にちなみ植樹体験をしてみようという企画で、将来的にはモミジの森をつくって行こうというものである。

市民の方々の植樹に対する関心はいかかかと思っていたが、当日受付開始早々に子供会(12人)の参加に始まり、その後親子、夫婦等多数の方々の参加により予定していた30本の植樹は事故もなく無事終了した。

特に、1組の老夫婦、2組の親子の方は後日、自分達が植樹した苗木の生育状況を把握するために植樹場所を熱心に記録していた。森に対する関心の深さに感動した。

なお、当日スタッフとして手伝いをいただいた、もりメイト倶楽部Hiroshima(5人)、フォレストクラブ森守(5人)の方々に深く感謝する。



記録者：フォレストクラブ森守・もりメイト倶楽部Hiroshima・
広島市森林公園 野上 央

木の葉さがしゲーム

■参加人数：135名

▼プログラム状況

芝生広場周辺で開催された木の葉ゲームの参加者は受付で説明を聞いた後、問題用紙(解答欄含む)を受取り、問題の木の葉を見つけその木の名前を解答欄へ記入するゲームだった。

参加者は親子・兄弟・友だち等での参加で各組仲良く問題の写真を見ながら「これ写真に似ている!」答えは「まつ、ほら写真と同じ」と相談しながら問題をクリアしていた。解答用紙を受付へ提出後、スタッフのチェックを受け間違った樹木については、正解の木の名前を教えてもらっていた。

また、ゲーム中に拾ってきた木の葉を参加賞の賞状に各自がラミネートし記念にお持ち帰りとしたが参加者には大変好評だった。



記録者：フォレストクラブ森守・もりメイト倶楽部Hiroshima・
広島市森林公園 渡辺 鋭明

紙ヒコーキを飛ばそう!

■参加人数：230名

▼プログラム状況

今年で5回目のイベント参加!おじさん達は、5月頃より合会を重ね、いよいよ当日を迎えたのでありませす。唯一の助手とおじさんは、朝7:00スタート!イベント日中の快晴で、山の緑・芝生の緑が眩しくて...現地に着くと早や!多くの参加者が...!!

開会宣言!式典挨拶...の途中から子供たちは「おじさ〜ん!紙ヒコーキを!!」と楽しい(イヤイヤ?忙しい!)一日が始まったのであります。

■"行列のできる!!"「紙ヒコーキ教室」

【午前の部】... 9:30~(160名)

【午後の部】...12:30~(70名)

10:00開始が早くなり、スタッフ一同「大慌て」になったのでありませす。

子どもたち...「どこを折るの〜?どこまで〜?待って〜!はさみを!ホッチキスを...〇*△X?...!!」といつもの、賑やかな教室になったのでありませす。

引っ張りだこのおじさんと唯一の助手が...。(今回は2名の応援者がいたのです。)



■紙ヒコーキで"30秒"に挑戦!!

参加者...230名

「予選・敗者復活戦」

10名が一斉に飛ばし、滞空時間の長い人2名が決勝戦へ+敗者復活戦2名が進出する。

「決勝戦」

36名の決勝進出者は、1名ずつストップウォッチにて滞空時間を計測!

1~5位まで入賞!!(午前・午後の部)



記録者：広島紙ヒコーキを飛ばそう会 中野 侃

森の味わいコーナー

■参加人数：300名

▼プログラム状況

当日は天候もよく家族連れの方が多く、非常に賑わっており活気にあふれていた。

生協ひろしまでは、青ネギ・牡蠣フライ・平核無柿・リンゴ等フルーツを販売しました。試食コーナーで、子供さんが喜んで食べている光景を見るとこちらも嬉しい気持ちになりました。

会場内に食べ物を販売している所が少なかった影響もあり、牡蠣フライは待ちが出るくらいの繁盛で、12時には完売。野菜・果物の販売では、県内産が青ネギだけだったので「地産地消の取組みとしては少し弱いね」と言われる方もいた。今後の検討課題にしたい。

このようなイベントを通して、多くの方が山や木々に触れ合うことで、自然を学び・大切にすることを養えば、環境問題も明るい兆しが見えてくると思います。



記録者：生協ひろしま 上本真稔

広島市サテライト会場

広島県緑化センター

■参加人数：約3,000名

▼プログラム状況

12のボランティア団体に県の職員やイベントスタッフ等を含め87人の協力を受け、好天に恵まれ、素晴らしい雰囲気の中で、第30回全国育樹祭サテライト会場である広島県緑化センターで第5回「山の日」県民の集いを開催することが出来ました。

今回この会場の運営はボランティアによる手作りによるものであったと思います。予算も限られており、その範囲でやるのは当初不可能ではと思っておりましたが、色々工夫しているうちにふれあい湧・グリーンさくら会・ひろしま人と樹の会等から協力できるとの意向を受け、舞台作り・横断幕設置・山の日スラッグ設置・テント設営・テント撤去・マツタケ山の班編成と判別テープ設置・出店看板作り等々の協力を受けました。

参加者集めも早めにチラシを作り、レストハウスで手渡ししたり、福田町内会・近辺の子供会・農協・学校・公民館・市町村等々を訪問してチラシを渡してお願いして回るなど工夫したこと、新聞テレビなどにより広く広報して頂いたお陰に紅葉や十月ザクラの開花も後押ししてくれ、広島市内は勿論、東は尾道・北は三次方面に至るまで広い範囲から3,000人もの参加を頂いたことに深く感謝しております。各イベントコーナーも一日中賑わい、スタッフは勿論参加者にも喜んで楽しんで頂くことが出来大満足でした。緑のたる募金も設置しましたが皆さんの温かい協力がありました。広島県緑化センターも良く知られて来ており「山の日」県民の集いが広まって来ていることが強く感じられた一日でした。

記録者：広島県緑化センター 廣瀬 健



整備で生かさうマツタケ山

■参加人数：67名

▼プログラム状況

第30回全国育樹祭のサテライト会場として新聞・チラシ等々で広く周知されたせいか早々と申し込みも有り、当日も殺到される状態で、当初目標を大きく上回って大盛況で始まる。広島の松茸の今と昔の出荷量、どういう環境にしてやれば松茸が生えるかをキノコアドバイザーの川上嘉章先生の説明があり、ひろしま人と樹の会の人で定例の「ドングリコロコロの安全祈願」後、参加者全員がやる気満々、ヘルメット姿の完全装備で予定地へ移動。移動中もアカマツ林を持っているが、どうしたら松茸が生えるか参考にしたく参加した。スーパー松の植林をしたいが相談に乗ってくれる人はいないか。今日手入れすれば来年は松茸が生えるのか。等々の話が相次ぎ、松茸林に付いての関心の高さが伺えた。来年は松茸が見たいとの思いか力も入り、山作業に慣れた人、山歩きに慣れた人達が大半。ウラジロやカヤがテノコで良く切れたと言われ安全を考え鎌からテノコにしたことにホッさせられた。ウラジロに覆われた山肌が一気に整備され、山仕事は人海戦術が一番と思われ知らされた一日でした。快晴のもと一汗かき、怪我一つなく爽快な気分のもと参加者で記念撮影し終了出来「山の日」県民の集いにふさわしい行事でした。



記録者：ふれあい湧 田村 昌嗣

大きく育て!ヤマザクラ

■参加人数：31名

▼プログラム状況

緑化センターのさくらの森を主な基地として活動しているグリーンさくら会は第30回全国育樹祭・第5回「山の日」県民の集いサテライト会場に、今まで植樹してきた200本のヤマザクラに肥料を施す「全国育樹祭行事」に相応しい行事で参加しようと言うことになりました。参加者が少ないのではと事前に協力頂けそうな環境カウンセラー広島(環境大学)様やプロジェクト武田山様等に働きかけましたところ快く引き受けて頂きましたので、意を強くして事前準備として発酵固形油カスを5個づつ袋詰めしたものを200個用意。三班編成の責任者も決め当日を迎えました。ボランティアの方々も早くから元気に駆けつけて下さり、又当日の一般参加者も数人あり、開会式終了後15分位でさくらの森に着き、3班に分散してヤマザクラに肥料を置いて回りました。2~3年もすれば花が咲きそうなサクランボも有り、又其の時皆さんをお呼びして花見が出来ればと思ひながら快い汗を拭きながら作業を終えました。



記録者：グリーンさくら会 渡辺 徹也

秋のキノコ教室

■参加人数：83名

▼プログラム状況

天候にも恵まれ育樹祭及び山の日県民の集いイベントは盛況の中、無事終了することが出来ました。運営はボランティアが中心となっており、様々な催しが行われました。緑化センターとしては、毎年夏と秋に行っている「秋のきのこ教室」を開催しました。



きのこ教室は毎年たくさんの方が参加されていますが、今年は雨が少なく、園内を歩いてもきのこを見つけることはなく、少なく感じていました。研修は83名の方が参加されきのこを採集し、多目的広場に持ち寄りました。不明なきのこは除き約70種類のきのこが同定され、その内、16種類が毒きのこ(スギヒラタケ・チャツムタケ・ツキヨタケ・ニガクリタケなど)で食毒不明のきのこが大半を占めました。コウボウフデというきのこも確認されました。参加者は、本を片手に先生の説明に耳を傾けておられました。降水量が少なかった状況を思うと、よく見つかった方ではなかったでしょうか。このような研修を通じて、きのこや自然などに興味を持っていただければと思います。



記録者：広島県緑化センター 小田 芳生

親子で遊べるドングリ工作

■参加人数：107名

▼プログラム状況

「山の日」県民の集いに、愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会は家族で楽しむドングリ工作で参加しました。

順次受付しながらドングリを使って工作して頂くイベントを行いました。9時30分から開始しましたが、開始から家族連れが申しこまれる状態が続きました。子供さんと良い作品が出来たら賞状と記念品を渡すため50組用意しましたが、甲乙付けたい素晴らしい作品ばかりで、早い時間に無くなる状態でした。午後には台にする材料が不足する状態でスタッフが分担して木の輪切りを作ったり木を集めたり等で6人のスタッフも汗だくの連続でした。参加者は親子で楽しみながらアイデアあふれる作品作りに熱中され、大変喜ばれた和やかな一日になったようでした。



記録者：愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 森山 利夫

挑戦しよう!丸太切り

■参加人数：127名

▼プログラム状況

ヒノキの丸太8本と据付用の台5個と鋸・カスガイ・金槌等を用意して当日を迎えました。朝スタッフ5人も早々駆けつけ、ブルーシートを敷きその上に据付台5台を置き丸太を並べてカスガイでヒノキと据付台を固定して、鋸を配置して参加者を待ちました。

開会式終了後、子供さんから年配の方に至るまで次々参加され一日中途切れることなく盛況に推移しました。汗だくで切った年配のご婦人は良い香りがするのでお風呂に入れてヒノキ風呂の雰囲気味わいますとっておられた。

参加者は127名で木を切ることがこんなに人気があるのかと感じながら「山の日」県民の集いに相応しい行事であったと思いました。



記録者：広島県グリーンサポート連絡会 森本 和明

森のネイチャーゲーム

■参加人数：70名

▼プログラム状況

オープニングの時、山の日宣言を読み上げる。思えばこのフィールドから活動が始まった市の会。感慨深いものがある。それぞれの会場で頑張っている仲間を思いながら、10時受付開始、3人のスタッフが4家族ずつぐらゐをフィールドに案内、木をテーマに「木こりの親方」「カモフラージュ」「フィールドビンゴ」「木の鼓動」「私の木」等を実施。

熱心な参加者が多く途中から合流する家族連れの方も…。プロジェクト武田山の方やボランティアで活躍の広島経済大学の学生さんもネイチャーゲームを団体の活動にと声が掛かり、今後の交流に期待をつのらせた。又、今回は緑化センターさんの発案で学校の先生方対象に入門講座をとのことで、本川小学校の先生方に実施。テキストを配り、「はじめまして」に始まって「フィールドボエム」まで駆け足で…

緑化センターの沢山の自然に気付いてもらえれば嬉しい限りです。



記録者：広島県ネイチャーゲーム協会 住吉 和子

まき割り体験

■参加人数：69名

▼プログラム状況

予め35センチ程度の長さに切った松の丸太と鉋、木槌、斧を用意し参加者を待ちました。このようなイベントにどれだけの人が興味を持ち参加されるか不安でしたが、案ずるより産むが安いで、年配の方をはじめたくさんの方が参加して下さいました。斧を高く振りかざし次から次と見事に割り快感を味わっておられたり、「昔は良くやったものよ」とか言って懐かしい思い出話も聞かせて下さいました。又、初めてと言う方もおられました。割った木がとてもいい香りがするのでお風呂や玄関に置いて置こう、今晚お風呂を沸かそうと東ねる人など用途は多種多様でこのイベントを楽しんでおられました。時代が変わり直接木に触れ合う機会が少なくなった昨今、木の利用や温もりを肌で感じ、もっともっと山の恵みを大切に頂ければと感じた一日でした。



記録者：ふれあい湧 児玉 忠利

ペットボトルで花栽培/朝取り野菜の販売

■参加人数：170名

▼プログラム状況

第30回全国育樹祭、第5回「山の日」県民の集い緑化センターサテライト会場に於いて「ペットボトルで花栽培」と「空宙トマトの販売」を上野園芸さんの応援で販売した。

「ペットボトルで花栽培」は使用済みのペットボトルの再利用で特許の器具にペットボトル4個使用する。3個には好きな花を選んで植え付け1個には水を入れて器具にセットで出来上がる。一週間程度は水を与えなくても花や野菜を育てることが出来る。

お客様に作り方を指導しながら高評にホット… 各自手作りに満足された手ごたえ有り…



『空宙トマトの販売』は推奨販売の折でもあり試食した上でお買い上げ頂きましたが、午前中には完売して売り切れ後も訪ねて見える状態で大変好評でスタッフも良い一日だったと満足でした。

記録者：ふれあい湧 川崎 誠治

参加者が少ないかもしれませんが出展して頂けないかとの依頼で出展させていただきました。2時半迄の出展と言う事で、葉物野菜を控えめに伊モやきゅうり、かぼちゃにジャムやお餅、タマゴ、漬物等々二十品目以上出展しましたが、天候もよく多数の来場者に恵まれ、年配の人も多かったせいか昼前には品物が少なくなりましたので、広島に朝出展している仲間へ帰り道寄ってもらい、品物を増加して出展しましたが、2時半終了時にはほとんど完売の状態でした。どうも有難うございました。



(狩留家朝市:夏目)

ございました。機会がありましたら又出展させて頂きたいと思っております。

庄原市サテライト会場

かんぽの森

■参加人数：400名

▼プログラム状況

心配していたお天気も私たちの準備の苦勞を知ってか、すっきりした秋晴れとなり、実行委員は8時に集合し、12時からのさとやまの秋祭りと10時からの森の手入れ作業の受付準備に取り掛かりました。10時にはかんぽの森で八谷文策実行委員長により山の日の開会宣言を行い、実行委員のメンバー指導で森の手入れを開催しました。森の手入れには広島県労働者福祉協議会の皆さんや山岳連盟の皆さん、その他研究会のメンバーなど老若男女合わせて48名が参加しました。みなさんケガもなく気持ちよく作業を終え、参加者の皆さんの中にはその後、さとやまの秋祭りに参加される方も多くいらっしゃいました。12時にはさとやまの秋祭りの開会宣言を金丸等副実行委員長が行い、秋祭りの成功を祈念しました。秋祭りでは、森のおいしいダイニング、森のにぎやか音楽会、わくわくウッドクラフトなど行いました。ダイニングでは、地元のグループなどによる森の食材をふんだんに使ったピザや竹飯などに舌鼓、そしてウッドクラフトではかんぽの森の手入れで出た木材を使ってのクラフト作りなど行いました。森のにぎやか音楽会は13時から20時まで森の中で地元の音楽グループを中心にフルートの演奏やアルプホルン、アコースティックギターなどの演奏を行い、森の中でゆったりとした時間を過ごしていただきました。

また、かんぽの森のお散歩ツアーでは広島県森林インストラクター協会の皆さんにご協力頂き、計3回、計25名の皆さんが参加くださいました。告知はしていませんでしたが当日ツリークライミングも行っていただき、子供たちが初めての木登りに挑戦する場面も見受けられました。また、森のネイチャーゲームでは福山ネイチャーゲームの会の皆さんにより12名のみなさんがネイチャーゲームを体験されました。その他森の写真展では東城フォレスト2000の取り組みの紹介や森のバイオマス研究会主催のこれまでのかんぽの森の手入れの様子などの写真を展示しました。さらに食彩館しょうば



らゆめさくら会場においてはペレットストーブ展示会を開催し、5台のペレットストーブを展示し、森のバイオマス利用の様子も多くの皆さんに見ていただくことができました。

また、このお祭りは「お祭りエコ大作戦」として森の中にゴミを残さないというポリシーで、お祭りで使用する食器は全てリユース食器を使用しました。慣れないシステムですが参加者の皆さんもきちんと使った食器は洗って返却くださり、森の中での気持ちよいイベントになりました。夕方からは竹で作ったフットランプとかがり火が幻想的な森を創り、それにあわせて音楽会も白熱し、閉会は20時30分となりましたが、最後まで多くの方にお祭りを楽しんでいただき、おかげさまで大盛會となりました。

記録者：NPO法人森のバイオマス研究会 徳岡真紀



森の手入れ

■参加人数：48名

▼プログラム状況

広島県労働者福祉協議会、広島県山岳連盟の皆さんなど老若男女合わせて48名の参加により、里山の手入れを行ないました。



森のネイチャーゲーム

■参加人数：約14名

▼プログラム状況

活動の始めは、ある生き物のヒントからその生き物を推理しました。ヒントを1つずつ聞きながら分った時点で鼻に人差し指を当てます。分った人は得意げにニヤニヤしています。すぐに分った人もいればかなり苦戦していた人も・・・意外に知らなかった生き物の生態や特徴に改めて感心する場面もありました。それからグループに分かれ自然の宝ものが書かれたカードを使ったビンゴゲームを楽しみました。芽、すべすべしたもの、甘い匂い、鳥の声など様々な感覚を使っていろいろな発見をしました。子どもたちの旺盛な好奇心や豊かな感性は大人顔負けです。最後は、いつもとは違った雰囲気「目かくし」をして森の中を散歩しました。グループごとに一列に並んで誘導されながらゆっくりと歩きはじめます。初めは戸惑っていた子ども達も、この新鮮で不思議な感覚に目かくしして散歩することが楽しくなってきたようです。視覚以外の感覚を使って自然を感じることでそれまで眠っていた感覚が目覚め、今まで感じなかった草木や土の匂い、風の音を感じることが出来るようになったようです。だんだんとほころんでいく参加者の表情がとても印象的な一時でした。



記録者：広島県ネイチャーゲーム協会 小笠原 康成

森のにぎやか音楽会

■参加人数：多数

▼プログラム状況

13時から20時まで、森の中でコンサートが行なわれました。地元の音楽グループを中心に、写真でご覧のように、アルプホルンの演奏も行なわれ、森の中で緩やかに時間が流れて行きました。



わくわくウッドクラフト

■参加人数：多数

▼プログラム状況

かんぼの森の手入れで出た木材、枝などを使い創造力豊かに、クラフトづくりを行ないました。



ペレットストーブ展覧会

■参加人数：多数

▼プログラム状況

食菜館しょうばらゆめさくら会場において、5台のペレットストーブを展示いたしました。



かんぼの森のお散歩ツアー

■参加人数：25名(3回実施)

▼プログラム状況

広島県森林インストラクター協会の皆さんの案内で、かんぼの森のツアーを行ないました。3回行い、あわせて、25名の方が参加されました。



森の美味しいダイニング

■参加人数：多数

▼プログラム状況

森の食材をふんだんに使ったピザなどが人気を博していました。シェフは、地元のグループ等。



実行委員会(全体)

■相談役・アドバイザー	森本 竹一 中越 信和 川野 惣司	元・吉和村村長 広島大学大学院 国際協力研究科 教授 広島県農林水産部森林保全室 室長
■実行委員長	福島 俣人	三原商工会議所 副会頭
■副委員長	瀬川 千代子 伊藤 利彦 前垣 寿男 種村 重明 八谷 文策	ひろしま緑づくりインフォメーションセンター 代表 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 幹事 西条・山と水の環境機構 理事 広島県山岳連盟 会長 森のバイオマス研究会 監事
■委員	秋山 浩三 石井 英太郎 斎 陽 井上 年光 植田 俊彦 上原 實 上本 真穂 江川 和禰 大井 正 岡本 政巳 岡村 信秀 小野 寛 梶保 節男 大西 弘 黒田 幸喜 栗栖 寿規 桑原 清二 坂部 広和 佐々木 桂二 相良 伊知郎 佐竹 信夫 徳岡 真紀 中尾 光秀 中塚 秀男 中野 侃 広瀬 健 正本 良忠 見勢井 誠 山田 雅昭 山崎 弘身 六重部 篤志	広島県ネイチャーゲーム協会 西条・山と水の環境機構 運営委員 日本山岳会広島支部 阿品の森サポータークラブ 広島県農林水産部森林保全室 主任主査 林野庁 広島森林管理署 生協ひろしま 広島県森林インストラクター連絡協議会 事務局長 広島市森林公園園長 広島県農林水産部森林保全室 GL 広島県協同組合連絡協議会 代表幹事 エコロジー研究会ひろしま 広島県農林水産部森林保全室 事業調整監 広島県森林インストラクター連絡協議会 会長 広島県農林水産部森林保全室 主任 広島県農林水産部森林保全室 主任 フォレストクラブ森守 会長 東城町森林組合 組合長 生協ひろしま 広島県農林水産部森林保全室 GL 里山アート村村営協議会 森のバイオマス研究会 林野庁 広島森林管理署 広島県山岳連盟 普及部 広島紙ヒコキを飛ばそう会 会長 広島県グリーンサポート連絡会 会長 広島県緑化センター管理責任者 もりメイト倶楽部Hiroshima 会長 広島県山岳連盟 理事長 市民参加の森林づくり実行委員会 事務局次長 広島県自然観察指導員連絡会
■監事	垣内 孝正	(社)広島県みどり推進機構 事務局長
■事務局長	梅田 斎	(財)もみのき森林公園協会 支配人
■事務局(委員兼任)	連絡調整 兼森 志郎 財務担当 樋口 達哉 企画調整 畝崎 辰登	広島県山岳連盟 理事 (財)オイスカ広島支局 西条・山と水の環境機構 事務局

実行委員会(サテライト会場)

〈東広島市サテライト会場(憩いの森公園)〉

■実行委員長	前垣 寿男	西条・山と水の環境機構 理事
■副実行委員長	野島 信隆	広島県山岳連盟 普及部 部長
■運営委員長	石井 英太郎	西条・山と水の環境機構 運営委員
■副運営委員長	菊池 亜希良 沖村 雄二 福永 やす子 平岡 和司	広島大学大学院国際協力研究科 助手 東広島市自然研究会 東広島山の会 会長 中国電力エネルギー総合研究所 部長
■事務局長	畝崎 辰登	西条・山と水の環境機構

〈廿日市市サテライト会場(もみのき森林公園)〉

■実行委員長	平本 勝吉	(財)もみのき森林公園協会
■副実行委員長	大久保 正登	阿品の森サポータークラブ
■運営委員長	大西 弘	広島県森林インストラクター連絡協議会
■副運営委員長	井上 年光	阿品の森サポータークラブ
■事務局長	梅田 斉	(財)もみのき森林公園協会

〈広島市サテライト会場(広島市森林公園)〉

■実行委員長	伊藤 利彦	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会
■副実行委員長	大井 正	広島市森林公園 園長
■運営委員長	見勢井 誠	もりメイト倶楽部Hiroshima 会長
■副運営委員長	桑原 清二	フォレストクラブ森守 会長
■事務局長	山崎 弘身	市民参加の森林づくり実行委員会事務局・ (財)広島市農林水産振興センター 森づくり推進担当課長

〈広島市サテライト会場(広島県緑化センター)〉

■実行委員長	伊藤 利彦	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会
■副実行委員長	正本 良忠	広島県緑化センター 管理責任者
■運営委員長	廣瀬 健	広島県グリーンサポート連絡会
■副運営委員長	依 透 越智 正紀 太田 義治	愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会 ひろしま人と樹の会
■事務局長	廣瀬 健	広島県グリーンサポート連絡会

〈庄原市サテライト会場(かんぼの森)〉

■実行委員長	八谷 文策	NPO法人森のバイオマス研究会
■運営委員長	金丸 等	NPO法人森のバイオマス研究会
■副運営委員長	高尾 覚 坂部 広和	東城フォレスト2000 東城町森林組合 組合長
■事務局長	徳岡 真紀	NPO法人森のバイオマス研究会

協力者・団体等

- 東広島市**
サテライト会場
(憩いの森公園)
- 前夜祭/日本山岳会広島支部
 - 山のグラウンドワーク/西条・山と水の環境機構、サポート・トレッキング・グループ、(財)東光会、憩の森友の会、広島大学「森林と人間」講座、日興苑遊歩会、広島県山岳連盟、賀茂地方森林組合、西条農業高等学校、東広島市酒米栽培推進協議会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 龍王山の地質・岩石・遺跡—自然観察会/東広島市自然研究会
 - 森の働き者・野鳥を見よう—野鳥観察会/東広島の野鳥と自然に親しむ会
 - やま・もり・里山・ものづくり/ゆーもあファクトリー
 - 「木ぼっくり」の世界/広島県インストラクター連絡協議会
 - 地産地消 野菜市/JA広島中央
 - 紹介します、西条農業高校/西条農業高等学校
 - 山の手入れ道具・木工品の展示・販売/賀茂地方森林組合
 - 救護/井野口病院
 - 司会/山原玲子

- 廿日市市**
サテライト会場
(もみのき森林公園)
- やってみよう森のボランティア/広島県森林インストラクター連絡協議会、阿品の森サポータークラブ、広島県山岳連盟
 - 森のコンサート/吉和神楽団、塩瀬神楽団、宮乃木神楽団等
 - 自然観察会/広島県自然観察指導員連絡会
 - 森のクラフト教室/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - わくわくロケット教室/NPO法人環境教育コーディネート事業
 - もちまき/もみのき森林公園、JA佐伯中央
 - 林業・農業器具の展示販売/JA佐伯中央
 - 森の味覚市・ダッチオープン料理/大和重工 等

- 広島市**
サテライト会場
(広島市森林公園)
- 親ひのき子ひのきの森「枝打ち体験」/フォレストクラブ森守、もりメイト倶楽部 Hiroshima、市民参加の森林づくり実行委員会、広島県山岳連盟
 - 親子でベンチを作ろう/もりメイト倶楽部Hiroshima、フォレストクラブ森守、市民参加の森林づくり実行委員会
 - 森と昆虫—カブト虫を育てよう—/広島市森林公園
 - モミジの森をつくろう/広島市森林公園
 - 木の葉さがしゲーム/広島市森林公園
 - 紙ヒコーキを飛ばそう!/広島紙ヒコーキを飛ばそう会
 - 森の味わいコーナー/生活協同組合ひろしま

- 広島市**
サテライト会場
(広島県緑化センター)
- 整備で生かそうマツタケ山/ふれあい湧、ひろしま人と樹の会、広島県山岳連盟
 - 大きく育て!ヤマザクラ/グリーンさくら会、環境大学、プロジェクト武田山
 - 秋のキノコ教室/広島県緑化センター
 - 親子で遊べるドングリ工作/愛する熱帯多雨林のために再生紙で名刺を作る会
 - 挑戦しよう!丸太切り/広島県グリーンサポート連絡会
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - まき割り体験/ふれあい湧
 - ペットボトルで花栽培/ふれあい湧
 - マツタケ弁当と豚汁の販売/グリーンさくら会、ひろしま人と樹の会
 - 人気の空宙トマトの販売/ふれあい湧

協力者・団体等

- 朝どり野菜の販売/狩留家朝市
- 草花無料配布/広島県緑化センター
- 端材無料配布/グリーンさくら会
- 藤田真 森のコンサート/藤田真

- 庄原市**
サテライト会場
(かんぼの森)
- 森の手入れ/実行委員会、広島県山岳連盟
 - 森のネイチャーゲーム/広島県ネイチャーゲーム協会
 - 森の美味しいダイニング/実行委員会
 - わくわくウッドクラフト/実行委員会
 - かんぼの森のお散歩ツアー/広島県森林インストラクター連絡協議会
 - ペレットストーブ展覧会/NPO法人森のバイオマス研究会

今年も多くのご団体及び関係の方々の協働(コラボレーション)により、事業を行うことができました。心より感謝申し上げます。

11,700人、山に入る

第30回全国育樹祭 サテライト会場
第5回ひろしま「山の日」県民の集いの記録

- 発行日 2006年12月4日
- 発行 第5回ひろしま「山の日」県民の集い実行委員会
- 編集 実行委員会事務局
- 事務局 〒730-0041
広島県広島市中区小町2-28-703 担当: 畝崎
TEL (082) 248-3567 FAX (082) 248-3586
e-mail: unezaki@publics.jp